

保育現場でのDX推進

保育分野でのDX推進のため、2024（令和6）年4月から「保育現場でのDXの推進に向けた調査研究事業」が行われており、さらに同調査研究事業の一環として「保育分野における事務フロー・データセット等に関する協議会」および各ワーキンググループ（WG）での議論、全国意見照会の結果を踏まえ、2025（令和7）年3月に成果報告書がとりまとめられています。自治体、事業者、利用者ごとのメリット等を見ていきます。



事務負担の軽減と業務改善を目指して

女性の就業率向上に伴う保育施設の需要が高まる一方で、保育士の有効求人倍率は高い水準での推移が続いており、2025（令和7）年1月現在では3・78倍と、全職種平均の1・34倍を大きく上回っている。保育の現場では、給付・監査の事務をはじめ多くの書類作成があり、一部でICT導入が行われているものの、手書きによる作成も未だ一般的

であり、業務負担を軽減し、より働きやすい環境としていくことが人材確保の面でも必要となっている。

こうした状況の改善に向け、2021（令和3）年7月、内閣府に「子ども・子育て支援システム標準化検討会」とその下に3つのWGが設置され、地方自治体における子ども・子育て支援に係る業務プロセス・情報システムの標準化に向けた検討が始まった。同検討会での議論を踏まえ、「子ども・子育て支援システム標準仕様書」（第1・0版）（2022（令和4）年8月31日）を策定・公開、

2023（令和5）年3月31日には同仕様書の第1・1版を改訂・公開している。その後、同年9月1日には、こども家庭庁の「こども政策DX推進チーム」において、①保育ICTの導入率100%に向けた体制整備、②自治体管理プラットフォームの標準化・共同調達支援、③保育施設レジストリ※の構築・運用、という保育DXの推進の方向性が示された。また、同年12月20日のデジタル行財政改革会議でも保育DXについて説明された。

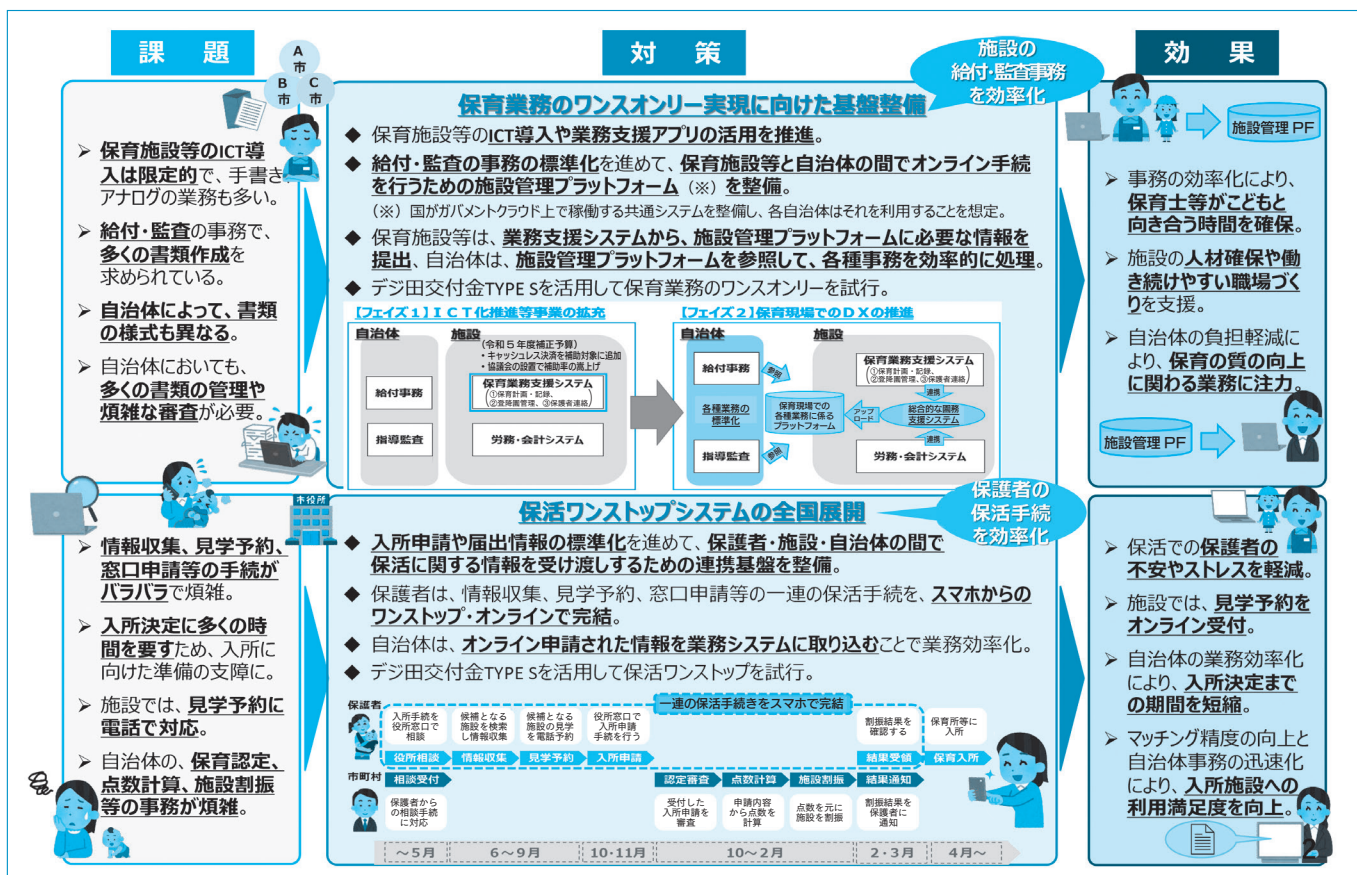
保育DXを具体的に進めるため、2024（令和6）年3月からは「デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ・TYPE」の公募と採択、保育現場でのDXの推進に向けた調査研究事業（2023（令和5）年度補正予算）の実施と「保育分野における事務フロー・データセット等に関する協議会」（2024（令和6）年6月）の開催等が行われている。

なお、こども家庭庁では「こどもまんなか実行計画2024」（2024（令和6）年5月）も政策推進会議決定で、保育DXによる現場の負担軽減を図るため、「保育業務のワンストップ実現に向けた基盤整備」と「保活ワンストップシステムの全国展開」に

※ 1…外部から登録される各種情報を受け付けて、まとめて保管しておくシステムのこと

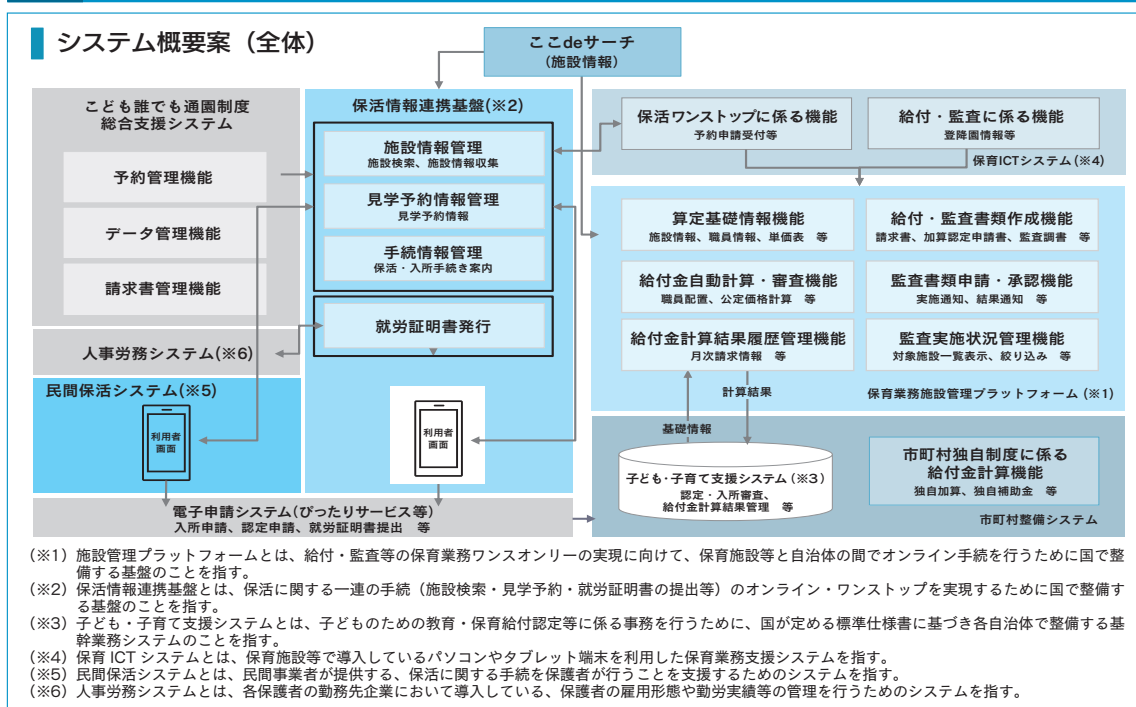


図1 保育DXによる現場の負担軽減



保育DXの推進について(令和6年9月 子ども家庭庁保育政策課)

図2 保育DXに係る、全体のシステム概要案



保育現場でのDXの推進に向けた調査研究成果報告書(2025年3月)より

より、保育士等の負担軽減による保育の質の確保や保護者の負担軽減による子育てと仕事

保育DXの2本の柱とは

「保育業務のワンストップ」とは、保育

の両立支援を進めることを打ち出している。



京セラ式原価管理手法の導入による働き方改革

— 東京都足立区・社会医療法人社団慈生会 等潤病院 —

福祉医療機構では、地域の福祉医療基盤の整備を支援するため、有利な条件での融資を行っています。今回は、その融資制度を利用された東京都足立区の等潤病院を取りあげます。同院は京セラ式病院原価管理手法を導入した経営改革を行い、職員が働きがいをもてる職場環境を整備しています。その取り組みや効果について取材しました。

急性期から回復期、在宅医療まで一貫したサービスを提供

東京都足立区にある社会医療法人社団慈生会等潤病院は、「地域と共に生きる慈しみのトータルヘルスケア」という理念のもと、急性期から回復期、在宅医療、健康増進まで一貫したサービス提供に取り組んでいる。

法人の沿革としては、昭和49年に同院の前身となる足立クリニックを開設したことはじまる。昭和54年に等潤病院に改組するとともに、昭和56年に医療法人社団慈生会を設立。その後、救急・急性期医療の中核病院として地域医療を長年にわたり支え、特別医療法人を経て、平成24年に社会医療法人化している。

現在の病床数は150床で、その内訳は一般病棟78床、地域包括

ケア病棟30床、回復期リハビリテーション病棟42床となっている。救急医療では、二次救急医療機関、地域救急医療センターとして24時間365日体制の救急診療を行い、年間約3000件の救急搬送を受け入れている。

医療機能としては、心臓血管センター、腎センター、内視鏡センター、健診センターの機能を有し、治療では内視鏡治療や鏡視下手術、がんの科学療法など最新の治療を取り入れ、低侵襲治療である血管内治療にも注力。現在は冠動脈疾患や末梢血管疾患、不整脈、脳血管障害に対する治療を実施している。

さらに、最新の医療機器（320列CT、3T-MRI）を導入し、迅速な診断とともに質の高い医療提供につなげている。その一方で、地域の高齢化進行を見据え、リハビリにも力を入れ、急性期、回復期、生活期においてシームレスなリハ

施設の概要

社会医療法人社団 慈生会 等潤病院

〒121-0075

東京都足立区一ツ家4-3-4

TEL 03-3850-8711

FAX 03-3858-9339

URL https://www.jiseikai-phcc.jp/tojun_hospital/

病院開設：昭和56年

理事長/院長：伊藤 雅史

病床数：150床（一般病棟78床、地域包括ケア病棟30床、回復期リハビリテーション病棟42床）

診療科：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、人工透析、糖尿病内科、神経内科、血液内科、外科、乳腺外科、整形外科、消化器外科、脳神経外科、血管外科、肛門外科、麻酔科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、緩和ケア科、リウマチ科、皮膚科

法人施設：等潤メディカルプラザ病院（緩和ケアセンター、腎センター、健診センター）、等潤メディカル事業部（診療所、住宅型有料老人ホーム、グループホーム、訪問看護、通所リハビリ、通所介護、居宅介護支援、地域包括ケアセンター）、介護老人保健施設イルアカーサ



リハを提供している。

法人理念を体现した医療・介護の複合施設を開設

法人施設としては、等潤病院のほか、診療所や介護老人保健施設、グループホーム、訪問看護、



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断りいたします。

続きは、

月刊誌

本誌にてご覧ください。

定期購読のご案内

月刊誌「WAM」は1年間の定期購読誌です。

購読料／1年間・・・8,988円（税、発送料込）

体裁／A4変型判 本文36ページ

編集・発行／独立行政法人福祉医療機構

編集協力／株式会社法研

[定期購読のお申し込みはこちら](#)

お問い合わせ

〒105-8486 東京都港区虎ノ門4-3-13ヒューリック神谷町ビル9階
独立行政法人福祉医療機構 総務部 広報課
TEL:03-3438-9240 fax:03-3438-9949